

令和4年度 都城市立有水小学校 学校自己評価・学校関係者評価 評価書

	達成の割合 児童の判断基準(%)	は、肯定的回答が低いかなかったもの				前期と後期 肯定的回答の差	学校自己評価(校長)	学校関係者評価(学校運営協議会) A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1)点	総合 評価
		A 80%以上	B 80%~50%	C 50%~20%	D 20%未満				
学習	1 考えの伝達	児	45%	43%	12%	0%	<p>○ 全校朝会などで「自分の考えをもち、表現する子ども」について、話をしていたので、少しずつ自分の言葉で一生涯懸命考え、発表できるようになってきている。</p> <p>○ 効率的な学習や考えの交流など子どもたちのためになる活用を図るために、職員のスキルを上げる研修を行い、情報を共有してきたことで、可能な範囲で、活用が進んでいる。</p> <p>○ それぞれの学級で、定着を図るための手立てとして、小テストなどを行い、確実に力はついてきている。</p> <p>○ 振り返り週間を行い、自分の家庭学習を工夫させたり結果を家庭に知らせたりすることで、家庭学習の見届けをさせていただいている。しかし、見届けには、家庭によって差がある。学校側も家庭学習の仕方・内容について再確認が必要である。</p> <p>○ 隙間時間を見つけて読書させたり、曜日を決めて、本を借りに行くように声を掛けたりすることで、本は借りるようになってきているが、じっくりと読んでいない児童も見られる。</p> <p>○ 通信や図書館だよりで保護者への啓発を行うことで、期間中はよく読んでいるようであるが、その他時はあまり読んでいない。</p>	<p>・物事全て100%というのはありえない訳で目標を掲げて努力する姿勢を習慣化して自分自身を高めて行く事が大切だと思う。</p> <p>②タブレット(リモート)を使って勉強をする姿をよく見かけた。</p> <p>③タブレット利用については、導入当時の扱いに困っている学校の感じが急激に進歩していると思う。(困り感が一切なくなった。)一方で、自宅での利用ルールが守られていない。コロナ禍における活用は、とても有意義であると感じた。タブレットの利用方法を保護者が理解していないため声かけのやりようがない。</p> <p>④タブレットの積極的活用では、教師の1/3があまり思わないとの評価があり、更なるご指導を願いたい。</p> <p>⑤学習で、タブレットの活用を今後も推進していき、子どもたちの出来ることを増やしてもらいたい。先生方は大変だと思いますが、有水全体でのスキルアップが大事だと思う。</p> <p>⑥タブレット積極的活用で、積極的な子どもたちの勉強ややる気が見られる。</p> <p>⑦家庭学習において、見届けの意義や取り組みやすくなるような活動が必要かも。子どもが宿題の範囲をごまかしたり、習っていない、分らなかったなどがあって、本当に見届けができていないのか疑問。</p> <p>⑧家庭での取組を期待する。</p> <p>⑨読書の必要性を繰り返し教えしてほしい。</p> <p>⑩15分読書では、児童と教師・親との評価に差があり、特に教師で、前期から△33%の原因はどこにあるのか、評価の方法を統一する必要があるのではないか。</p> <p>⑪家庭は、本を借りる競争になっしまわないように、本の感想を聞く時間があればよい。</p>	B
		教	11%	67%	22%	0%			
		保	26%	56%	18%	0%			
	2 タブレット積極的活用	児	68%	28%	4%	0%			
		教	11%	56%	33%	0%			
		保	44%	44%	9%	3%			
	3 漢字や計算の定着	児	59%	32%	9%	0%			
		教	14%	86%	0%	0%			
		保	29%	53%	18%	0%			
	4 家庭学習の工夫・点検	児	40%	28%	19%	13%			
教		17%	66%	17%	0%				
保		35%	47%	12%	6%				
5 15分読書	児	43%	30%	21%	6%				
	教	17%	17%	66%	0%				
	保	6%	26%	53%	15%				
6 家庭の取組	児	45%	36%	15%	4%				
	教	17%	83%	0%	0%				
	保	21%	24%	46%	9%				
全体平均			30%	46%	21%	3%			
生活	7 有水小 よい子のきまり	児	77%	19%	4%	0%	<p>○ 守れている児童と守れていない児童の二極化が見られる。また、校内ではできているが、校外ではあまりできていない児童もいる。2学期後半に改定を行ったので、3学期当初に学級活動などできまりについての再確認を行う。</p> <p>○ 授業ではよい意見が出されるので、それが実践につながるよう、授業で使ったワークシートや掲示物などを活用している。また、通信などで道徳の指導内容を知らせ、家庭でも話題にしてもらえるように努めている。</p> <p>○ 有友チームでの行動が増え、学年問わず関わりがもてるようになってきた。上下の関係だけでなく、周りに対しての思いやりの言動が増えるように帰りの会などで機会を設けている。</p> <p>○ 児童の様子を見守り、声掛けをしたり話を聞いたりしている。また、家庭での悩みがある場合もあるので、家庭との連絡も密に取り合うようにする。</p>	<p>・最近 生活に関しては評価が上がっているように見受けられる。校長先生を始め、職員の方々の努力の賜だと思う。特にきまりを守る事は衣・食・住の次に大事だと考える。</p> <p>⑦あいさつの声が小さいので、元気よくしてくれるとうれしい。健康のパロメーター。</p> <p>⑧あいさつがよくできている。</p> <p>⑨「教」と「保」での評価の乖離は、具体例を示しつつ改善すべき。</p> <p>⑩子どもたちのあいさつはとてもよいと、見守りしながら思っています。</p> <p>⑪あいさつがよく、礼儀正しい児童が多いです。家庭でもしっかりと出来るように保護者が手本を見せてあげるのが、とても大事だと思います。</p> <p>⑫「教」と「保」で見られる「A」⇄「B」の差は何なのか、道徳が教科として評価される時代はいなかったため、「授業でのよい意見」という判断は思想教育として伸びやかな感性を育むことの障がいになるのではないか。</p> <p>⑬「C」と評価する児童が1名いる。何かしらやさくなる傾向となるのかもしれないが一過性のものかも。対象児童は学校は把握しているのか?</p> <p>⑭「教」の考える「A」と何か?「B」とは何か?「児」と「保」は満足しているのに評価が割れている。「どうしたい」「こうなんだ」とか意見交換が足りていない気がする。</p> <p>⑮思いやり行動、学校が楽しい・楽しく登校では、三者ともほぼ100%であり、有友チームの成果として、上級生から下級生まで仲良く出来ていると思う。いじめ等もなく、素晴らしい事である。・スマートフォンの使用に関する親子間でのルール作りにも、機会を捉えて更なる指導</p>	A
		教	91%	9%	0%	0%			
		保	50%	50%	0%	0%			
	8 道徳の授業の実行	児	57%	36%	4%	3%			
		教	33%	67%	0%	14%			
		保	15%	74%	11%	0%			
	9 思いやり行動	児	77%	19%	4%	0%			
		教	60%	40%	0%	0%			
		保	59%	41%	0%	0%			
	10 学校が楽しい 自己存在感を味わわせる 楽しく登校	児	89%	11%	0%	0%			
教		10%	90%	0%	0%				
保		92%	8%	0%	0%				
全体平均			59%	39%	2%	0%			
体育・保健	11 体育や昼休みの運動	児	87%	11%	2%	0%	<p>○ 昼休み外で遊ぶ児童が固定化している部分はあるが、運動場や体育館でしっかり汗をかくことができている。ただ、使える遊具が少なくなってきたため、新たな運動や遊びを提案していく必要がある。</p> <p>○ 元気の基本チェックの項目が分かりやすく、子どもたちも生活を振り返ることができた。しかし、保護者と子どもの「早寝早起き」に対する意識の差がある。</p> <p>○ 授業の始まりは姿勢が良いが、時間が経つと姿勢が崩れる児童が見られる。そこで、養護教諭に「立腰指導」を行ってもらうことで、子どもたちが普段できていないことに気付かせることができた。</p> <p>○ 歯みがきの大切さや習慣が浸透しておらず、朝と夜、家での歯磨きできていない児童が見られる。元気の基本チェックを継続し声掛けを積極的に行い、保護者へも歯みがきの大切さを発信していく必要がある。</p> <p>○ 給食では食べられるようになってきているが、家では食べていないようだ。今後も、食育指導で改善を図っていく。</p>	<p>・この項目は、Aランク・Bランクが拮抗しているが、高評価が示すとおり充実感がうかがえる。健全な肉体・精神は今も昔も変わらない普通のテーマである。</p> <p>①保護者は学校だけに頼らず、一緒に運動したり料理してみたりし、また、歯みがき・食事マナーなどを教えたり、家庭での生活で、身に付ける事が大事だと思う。</p> <p>②コロナ禍やメディアの普及により運動や外で遊ぶことが減ってきている。健康のためにも外で体を動かすことの大切さを子どもに伝えていってほしい。</p> <p>③遊具についてどれもこれも使用禁止となっている。児童が9割近く「A」としているのでもう口出ししなくてもいいかもしれないが、これの経緯を伺っておらずリスクマネジメントが行き過ぎたりしていないか。</p> <p>④体育や昼休みの運動では、使える遊具が少なくなったとの報告があり残念である。市の予算の関係もあるが、積極的に働きかけをお願いしたい。</p> <p>⑤早寝早起き、食事マナー、好き嫌いでは、保護者の評価が低くなっている。朝、家庭での食事で、主食のみが多いとの報告もあるので、バランスよく摂取できるように更なる指導をお願いしたい。</p> <p>⑥家庭での生活が大事なので保護者に気を配ってほしい。</p> <p>⑦「C」「D」と評価した保護者を対象に家庭教育学級にて、意識の高揚を図るべき。</p> <p>⑧姿勢を矯正する座椅子の導入は?タブレットやPCでの遠隔可能な授業においては、好きな姿勢での受講となるのが予想される。</p> <p>⑨「C」評価の「教」と「保」の割合がずいぶん乖離する。「教」の具体例を示し改善すべき。</p> <p>⑩歯の大切さは、健全な体を維持するための重要な道具だという事の認識を補い付けてほしい。</p>	B
		教	38%	62%	0%	0%			
		保	62%	35%	0%	3%			
	12 早寝・早起き	児	51%	43%	6%	0%			
		教	43%	43%	14%	0%			
		保	38%	38%	18%	6%			
	13 立腰	児	28%	57%	15%	0%			
		教	0%	78%	22%	0%			
		保	18%	53%	29%	0%			
	14 歯みがき	児	62%	36%	2%	0%			
教		29%	29%	42%	0%				
保		18%	65%	14%	3%				
15 食事マナー・好き嫌い	児	62%	23%	13%	2%				
	教	29%	71%	0%	0%				
	保	24%	53%	23%	0%				
全体平均			39%	46%	13%	1%			
その他	16 中学生との積極的取組	児	72%	26%	2%	0%	<p>○ 児童は交流を楽しみにしており、積極的に関わっている。児童・教師・保護者のほとんどが中学生との学習や行事に進んで参加していると肯定的に回答している。</p> <p>○ コロナ感染拡大防止の点から、なかなか取組ができなかったが、小中合同で、クリーン参戦を行う事ができた。</p> <p>○ 学校・教師は積極的な情報発信をしており、児童・保護者もその情報発信について高い評価をしている。</p>	<p>⑬スポーツフェスタやクリーン作戦など、小中合同で取り組み、交流することで学びもあると思う。</p> <p>⑭小中仲良く、運動や学習に取り組んでいる。</p> <p>⑮自分たちの頃は児童数も多かったせいから、中学生とは目に見えない壁みたいなものがあったが、今は交流されている。家の前を小・中学生がゴミを持って歩く姿は微笑ましい。三位一体プラス地域を含めてPTAが成り立つように思える。</p> <p>⑯Y u Y uランドデイや中学校からの乗り入れ授業など、小・中ともに積極的に取り組まれていると感じる。</p> <p>⑰中学生との積極的取組では、成功のスポーツフェスタに見られるように、Y u Y uランドデイでの活動等が基礎となっており、今後とも継続してほしい。</p> <p>⑱有水中との交流は、素晴らしいと思う。他の学校ではない取組で、子どもたちには、思いやりも学べてよい。</p> <p>⑲地域・ふるさとへの愛着や誇り、「ふるさとで生きる」という意識付け、成果は認められていないのではないかと。結果、小6年生は、2名のみの有水中進学につながっているのではないかと。小・中に区分することなく、地域をあげて学校活動に参加しないと、予想よりも早く、中学校は廃校になり、その後すぐに小学校もなくなってしまう。終わりに向けた動きも必要なのかもしれない。</p> <p>⑳日々発信される通信等は、地区の週報に同報するなど、地域に対してもアピールできているものと思われる。</p> <p>㉑小学校のホームページは、小さな出来事でも発信してくれ、更新を楽しみにしている。担任の先生方も通信の発行を多くしてくれ、子どもたちのよいコミュニケーションツールになっている。</p>	A
		教	78%	22%	0%	0%			
		保	41%	53%	3%	3%			
	17 地域学習への意欲	児	87%	11%	2%	0%			
		教	50%	50%	0%	0%			
		保	53%	47%	0%	0%			
	18 学校便り・学級通信等	児	74%	15%	9%	2%			
		教	67%	33%	0%	0%			
		保	76%	21%	3%	0%			
	全体平均			66%	31%	2%			

学校関係者評価を踏まえた今後の方策

- 1「確かな学力の向上」については、タブレットを積極的に活用し、児童・教師のスキルアップを図る。また、家での対応の仕方も再確認していく。家庭学習においては、やり方や内容を再確認するとともに、家庭教育学級とも連携し、見届け等について研修していく。読書については、取組・評価について統一していく。
- 2「豊かな心の育成」については、今年度改定した「よいこのきまり」について、児童・保護者への浸透を目指していく。また、校外でも学校と同じ姿が見られるように意識を高めていく。今後とも、小規模校のよさをいかし、下級生から上級生まで、仲良く楽しく学校生活がおくれるように努めていく。
- 3「たくましい体の育成」については、自分の体や健康についての意識を高める保健指導や体力向上のための取組を推進していく。学校保健委員会・家庭教育学級からも、基本的な生活習慣がしっかりと児童に定着するよう保護者の意識の高揚を図っていく。
- 4「開かれた学校づくりの推進」については、今後とも小中合同での取組を継続し交流を深めていく。また、地域学習を復活させる中で、ふるさとへの愛着や誇りを育んでいきたい。そして、学校通信・学級通信、ホームページを活用して学校からの情報発信を積極的に行い、児童の自信とやる気の育成に努めていく。